

東京商工会議所ビルディング

所在地 東京都千代田区丸の内3-2-2
用途 事務所
竣工 1960年
所有者 東京商工会議所
設計者 三菱地所株式会社一級建築士事務所
施工者 大成建設株式会社
維持管理者 東京商工会議所 財務部管理課



明治32年（1899年）妻木頼黄の設計で建てられた赤煉瓦の建物は丸の内ビジネスセンターとして我が国の産業育成と発展に貢献してきたが、1959年老朽化と当時の経済情勢への対応にも機能的に満足されなくなったため、現在の建物に建て替えられたのである。1960年12月竣工後、内部の機能や仕上の改修などが計画的に実行されながら早や39年という歳月が流れ、今なお丸の内ビジネス街のステイタスシンボルとなっている。

皇居前のお濠端の風景として隣接するネオ・グreek調の明治生命館と調和するよう、当時高額のためあまり実施例を見なかった本磨きの花崗石貼りが全面的に採用されており、彫の深い徹しいディテールの外装デザインはいつまでも飽きない重厚な存在感を示していると思う。

時代と共に歩む建築として、平面プランに見られるコアシステムはその後の幾度かの間仕切の変更にもフレキシブルに対応し、また31メートルの高さに対して8階という建築当時としては贅沢と思われるながらも、その十分な階高はその後の空調等の設備改修にも容易に対処している。また馬場先門交差点という交通の拠点に立地するビルとしても十分な先見性のもと交通騒音への配慮として道路側の窓を全て二重サッシュとし、現在でも竣工時と変らぬ閑静な執務環境が保たれている。

建物の維持保全として1986年にエレベーター改修、1988年屋上防水の更新、1993年会議場の空調・電気設備改修、1995年非常発電機及び照明設備改修、1997年地域暖房、熱源設備改修と氷蓄熱方式の導入等、詳細なデータ分析のもと2010年までを視野に入れた「維持保全計画書」を作成し順次着々と実施されている。また、花崗石の外装も39年を経過した現在に於いても数年毎のクリーニング程度で竣工当時の美観が保たれている。

当建物は我が国の経済活動の中心として所有者、管理者、設計者、施工者が三位一体となって管理運営維持保全がなされており、BELCA賞の受賞にふさわしい建築といえるであろう。